

本紙一週二回發行

編輯部
宣統元年
參拾月
參拾日

伯刺西爾時報社

發行所
宣統元年
四六七〇
電話七

いも此の習慣の良いか悪いかに原因する處が多く、若し惡い習慣や誤つた習慣に囚はれた場合其の人は不幸な人となり、之に反し良き習慣を作り、これに依つて一身を守り一家を支ゆるに於て、始めて其の人は幸福な人となり、成功者となり得るのである。

故に「成功」の途は、惡習慣から離れて良習慣に就くと云ふことにある、そして從來に於ける在伯那人農業者の一六勝負的農業經營法は、殆んど國民性とも云ふべき惡習慣であつて、此の惡習慣から脱却しない限りは、到底「成功」は望み得べからず、所謂「成功」は惡習慣から脱れた良習慣に就くの一途にあると云つて可なりである。

足不識認

日本軍の行動は

自衛權では無い

十九ヶ國委員會の報告

努力するが裡にも、在伯の同胞は、出来るだけ短期間に「成功」を掴まうとする處から、大切な健康も、樂しがるべき生活も、全く犠牲として無理なる勞動を爲す上に、事業其のものを投機的に、一六勝負の賭博臺に上すの觀があるが然しこれは、斷然其の利を得たものではない。 戰爭に非ざる平常の事業は、尙氣長に、焦らず、過勞に陥らず、細く長く無理せず行ふ處に「成功」が伴うのであるから、本年、同胞發展廿五周年記念を契機に生活の建直しを策し、比較的機械的に流れ易い棉作、米作、養蠶等を單一式たらしめず、之に配するに難作若くは畜養を以て副業式とし、順んでも決して食ふに困まらぬと云ふ安全方法を講ずるの習慣を附くるを、吾人は、一般農業者に向つてお勧めしたいのである。 習慣し之は尙に大切なものである、事業が「成功」するも、しな	壽府十八日發の電報に依れば、正に開けんとする聯盟總會に提出せんとする滿洲問題に關する十九ヶ國委員會の作成せる報告書なるものは、認諒不足から出來上つたリットン卿の報告に今猶ほ囚はれ滿洲に依然支那の主權を認め、目下滿洲鐵道沿線外に駐屯する日本軍隊の原駐地へ撤收を強要し、他方新に設置せらるべき交渉委員會であるに米露兩國を招請する筈であると云ふが之には、我々日支兩國が十九ヶ國委員會の勸告を受諾せねばならぬことを前提とする、又滿洲國の存續及び爲が承認は、現存の國際規約の諸原則並に日支兩國の完全なる了解の原則と氷炭相容れざるものにして特に極東の平和が一に繫つて日支兩國の態度に依存するものであると爲し、日本が和協的手段によりその解決をはからざるは非なりとし、更に一九三一年九月十八日以降日本軍が滿洲に於て採れる	軍事行動は、正當なる自衛權の發動と認むるを得ずと確言してゐる、尙本報告書では、滿洲國政府を以て日本人の手に成る傀儡政府とし、その民衆の多數は斯る政府を援助するものにあらずと斷じ、又滿洲國現政府の主腦部が日本人顧問其他に依つて占められてゐるの事實を指摘し更に一九三一年九月十八日以前の日支關係の緊張が兩國の責任にありとは云へ、爾後發生した幾多の事件に對しては、支那はその責に任すべきにあらずと述べ、支那人の採れる「日貨排斥」の如きも全く支那人の日本人に對する報復手段と看做すべきものなりと爲し、最後に聯盟は「滿洲國の現政權は如上の理由により之を承認せず」と結んでゐる	來る廿一日開催の總會では、去る一月廿四日十九ヶ國委員會が可決した報告書の承認を見るに至るものと一般に觀測されてゐる
--	---	---	--

松岡代表
英字紙に
所信 ひれき

松岡代表は十七日倫敦タキ・イーヴニング・スタンダード」社に電話し、目下日本の態度に就て種々の風評傳はるを以て、之れが誤解を一掃するの意に於て左の如く語つた。

「國聯盟日本代表部が本國政府に對し聯盟脱退を勧告した様一般に傳へられてゐるが斯事實はない、脱退問題に就ては、自分は本國政府の訓令を待つてゐるものである、又既に十九日國委員會より報告書の内示を受けたが委員自分は相當讓歩を條件と提したが委員會は之に代へる事なく日本政府に對し

自分は斯ことは有り得ない筈である、又よゝんは自分等が調停問題で一生懸念になつてゐるにしても、十九國委員會は今の處別に調停成立をばからう云ふ様な氣は少しもない様子である、現在の十九國委員會の態度では、議會の決議も未だ判らぬことである、日英問題の和協解決が出で來るか何うかは何んとも申し上げ兼ねる

と云つて其の通話を終つた(倫敦十八日)

日本全權

日本全權部
新聞記者に聲明

又松岡代表は日本政府の聯盟脱退の眞意を訊ねられたに對し左の如く答へた

日支關係は當初から、日支問題の解決が日支睦交に繋るべき旨を主張し今日と雖も右の見解は依然固持してゐる、又國際聯盟に對しても、自分と

帝國政府は、日本の輿論の許す範圍に之に依らず、日本政府が滿洲問題の解決に對して堅持せる態度に關し詳細に之を述べ、日本政府が和協手段に依つて飽く迄之が成立をはからんと不斷の努力を爲せる事を左の如く逐一開明してゐる

聯盟事務總長に宛て
松岡代表の鮮かな回答

去る十四日松岡代表は帝國政府の回訓に
基き、フランクフルト議長に對し左の如き回
答を手交した。

余は十九國委員會の決議に議長宣
言に對する一九三三年二月九日附の貴
輪を愛護した、今回貴會（フランクフル
ト議長）の提示せられたる問題は、既に帝
國政府により反覆開明せる處のものに
對し余も亦同會ある毎に十九國委員
會、聯盟委員會及び總會に對して口頭
又は書面に依り述べ説明を爲しわいた
右説明に依り帝國政府は聯盟に於て、
獨逸國獨立否認に關する如何なる討論
も之を受諾し能はざる旨を宣明し、本
問題に對して充分且つ完全なる説明を
加ふるに資する時を以てすれば、滿
洲獨逸の異相並に之に就き議論を許
さざるの特質を、全世界に了解せしめ
得るものと信するものである

更十九國委員會は、決議案及び議
長宣言文中より非聯盟國の招摺に關す
る部分を削除することゝ條件として、
第二希理翰の部分の承認を帝國政府に
要求するやう決定し之を宣明せる時、
委員會議長及び貴會が余に對し、帝國
の態度を説明する爲め、その餘白に宣
言又は保留をなし得る旨提議せる事實
につき、貴會の注意を喚起せんとする
ものである、當時余は、日本政府が新
る方策を執るに於ては、十九國委員
會は之に對して何等異議なし旨了解せ
るのである、事實十九國委員會が
該問題に關し明確なる概念を有した
んばは、日本政府に對して斯る提議を
なし得ざりしならんは余の深く嘆く
信するところのものである

伯 刺 西

表紙圖案懸賞募集

「鑑」は實に在伯同鑑全體の所産でありまして、多岐圖から
貴い生きた資料に依り目下着々其の歩を進めつゝあるを
ます、就きましては錦上更に花を添ゆるの意趣にむか
鑑」の表紙を廿五周年記念に最も相應はしいものにした
その圖案を茲に廣く募集する事に致しました
乞ふ同胞諸君よ一我等の年鑑」の爲めに海
募あらんことを

爾年鑑

應募規定

賞金二百ミルレース

▲伯刺西爾年鑑一九三三年を配し、廿五周年記念を慶ぶる創作もの

▲彩色山画(極めて高価にして目立つもの)

▲大さき菊版(縦二三センチ、横一六センチ)

▲締切期日：四月三十日本社到着

▲送付圖案は返還せず

▲採用せらる分に對し賞金贈呈

▲選者は本社年鑑編輯部

▲圖案は本社宛

伯刺西爾時報社

Caixa Postal, H. S. Paulo

脱退せよ

國の干渉を絶對に許さず、日支直接交渉の既定方針を固持する事に更に決定せると傳へられてゐる。

又、十九ヶ國委員會の勸告案が聯盟總會に於て可決せらるゝが如き場合は、帝國政府は聯盟規約第十五條第九項に從ひ反對宣言を爲す決心であると、尙滿洲問題に關する右委員會の報告書の採擇には帝國代表は反對投票を行ひ、總會に於て之が愈々採擇を見るに至れば、我代表全部は倫敦又は巴里に引上げを決定し、追て命令ある迄待つ様どの訓令が既に發せられてゐると（東京十八日）

陸相の聲明

代表に對し左の如く聲明した
自分としては、日本は即刻國
際聯盟と脱退すべきものと思
つてゐる、理由は、帝國政府
及び聯盟の兩者が新滿洲國承
認に關して見解を異にしてゐ

直接交渉説は
日本の逆宣傳

支那代表聲明

國際聯盟支那代表團は十六日左の如き聲明書を發表した

日下東京電報として國民政府と有吉公使との間に、滿洲問題に關する日支直接交渉の下交渉が進められてゐると傳へられてゐるが、右は近く聯盟開會の開催を控へ、日本の不利なる處から發した日本側の逆宣傳に過ぎない、と

帝國政府の

斷乎
たる 態度

十八日發東京電報では、同日午後開議を開き十九ヶ國委員會の勧告を斷乎拒絶することに決し且つ帝國の滿洲承認に關し第三

死は走り寄る

長春南領にて

銃剣は耕すより(十六)

ある喇叭手は、打たれるとさばるものに喇叭を渡して死んで行った

南をどつて行つた攻撃隊が、營に近づいて行つたのは午前十時頃であつた

うねつた煙の中を、兵營の東手に攻め込んで行つた、煉瓦塼や便所の窓から、ひつきりなしに弾が飛んで来た

倉本大尉の驚いたのは、兵營の外の道路と、兵營への道の丁字形のところで、道のそばで中隊長と一語にわたつたものゝが驚いてしまつたのである

戦死の跡には新しい木標がせり合つて立つてゐる、中隊長を中にして互ひにもたれ合つてゐるやうに

線香の煙が細く流れてゐる、大尉戦死の跡に立つて、弾がどこから飛んで来たかといふことを見たと、中隊長が、まゝで近づいて来た不敵さを驚くこと共、こゝに出ては如何にして敵の弾を通れることは出来なかつた

そんな時でも中隊長はいつも晴やかな顔でゐたといふ事を、そばにゐたものがあとで話したそうである

便所には窓がない代りに、小さな十字形の孔が無数に開いてゐる、支那兵はそれに據つて盛んに撃つて寄つて、塼の中へ飛び込もうとするものもあつた、併しそのいずれもが撃たれて死んでしまつた

兵營のある丘から東を見ると小さな丘がせり合つて、その間を伊通川の流が白く一線を引いてゐる

そのいづれにもやさしい睡を授けた

練兵場についた野営地は、そのまゝ、緑色に立ち上つてゐる、鳥で動いてゐた人達も戦争に怖れて、どこかへ隠れてしまつたのであらう

肥しをかけた、枯れ葉をむしつたりといふた日が何日あつたらう、そして鳥物を取り入れるひまもない中に冬が訪れて来た

私は歩いて土手から兵營の練瓦塼のそばへ行つた

厚い練瓦塼に、こゝろゝ大きな窓が明いてゐる

そこは日本兵が突入したところ、柳の立樹を切つて来て、練瓦塼をくぐりやうに穴をあけたのである

その時壁から一人の支那兵がヒョコリ顔を出した、的のやうな彼が撃たれたのはなかつた、棒のやうに仰向けにブツ倒れた、すると、又次の頭を出した

それが倒れると又次の頭を出した、どういふつもりかわからなかつた、穴が明いたから何か面白いものでも飛び出すかと思つたかも知れぬが、出たものは日本兵の顔のやうな顔でビツクリする間に撃たれてしまつた

撃つてもらひ度いやうなものであつた

練瓦塼のそばの便所のくみ取りで、支那のお百姓が糞を割つてゐる、汲むのではない、割るのである、『碎糞』といふ言葉のあるどほり新割で凍つた糞を碎くのである

その岩のやうに凍つた糞の中に、弾殻がクツクツと頭を出してゐる——岩おこしの中の南京豆といつた恰好に

便所の中の小窓から、ムチンコに打つてよこした様子が見えるやうである

便所の汲み取り口は犬どもが掘り出したのか鼠色の尿と、半

CASA FOTOPTICA

Agfa Kodak Zeiss Ikon

SÃO PAULO - RUA SÃO BENTO, 43

見よ！ 又々大附録贈呈の二月號

新年號はお陰様で非常な賣行！ 再版三版四版と誌界空前の大發展でした。今やグレート日本はキングの噂で持ちこたつて居ります。ぜひお買下さい。

満洲里道難血涙記

世界の現状を改造せよ
腕白小僧松岡洋右

時局大變遷、公敵、全同胞の注意！ 近衛文磨

柳川

漫画ゴキウ大

宇野小夜子

島崎ふじ子

處世の信條

非常時漫畫風景

天の聲・地の聲・四偉人

青春の解決

現代小説

青春の解決

現代小説

青春の解決

現代小説

大附録 大橋太郎

智學

大橋太郎

智學

額面用名画五枚

松岡映丘筆 越の海

マツホベ筆

並木